雜誌『医学教育』*1

鈴木淳一*2

学会長 牛場大蔵先生のもとに雑誌『医学教育』 の編集を中川米造先生のご協力で担当し、ちょう ど25年、25巻の1号で私の編集委員長としての 任に終止符を打つことになった。

雑誌をとり出してみると、さすが四半世紀は長い年月というべきで、とくに初期の数年間の内容をみると、大学紛争のほとぼりを冷やしつつ、アカデミックな医学教育学への転換の努力が感じられる。

本来,本白書は,1990—1994,4年間のまとめであるが,このさい25年間の編集の総まとめをして,尾島昭次委員長・畑尾正彦副委員長による現編集委員会への引継ぎとさせていただくことにした。

また、本白書編集にいささか日時を要しているうちに 1995 年を迎えたので、雑誌のまとめは、25巻の最終 6号までとした。雑誌については、表 $1\sim 6$ に、表紙解説、巻頭言、イラスト・コラム、カリキュラム研究会、特集、連載、そして出版物リスト一覧を最後に示した。

本学会の中心になって活躍された方々の短文に は珠玉の名品ともいうべきものが多い。タイトル から、バックナンバーをひらいて再度賞味される ことをおすすめする。

イラスト・コラム、表紙解説は表からお分りのように、それぞれ13巻、14巻からスタートして今日に至っている。ナギ・カツオ氏の品の良いイラストを得て、医学教育を多少とも親しみやすく、馴み深いものにしたいという編集委員会の試みで、好評であったと、自画自賛している次第。

カリキュラム研究会は、ご覧のように主として 外国からの医学教育者の話、あるいは外国での経 験談を聞くものであった。過去25年間、医学教育 学会の前に現れたその道の専門の方々、とくに外 国人も思い出していただければ幸いである。

なお,以下の各リストのまとめには,篠原出版 の竹下久美,教室秘書の福士美法両嬢の協力をえ たことを付記し感謝したい.

^{*1} Journal "Medical Education"

キーワーズ:『医学教育』,イラスト・コラム,カリキュラム研究会,白書

^{*2} Jun-Ichi Suzuki 帝京大学医学部耳鼻咽喉科学, 日本医学教育学会会長

表 1. 表紙解説 (Vol.14 No.1~Vol.25 No.6)

	衣1. 衣机件記 (V01,14 N0,1~V01,25 N0,0)		
Vol. 14 No.	留年	中川	米造
(S.58)	筆記試験以外の評価の進め方	尾島	昭次
3	医学教育と行動科学	中川	米造
4	医学校における一般教育	田中	勧
Ę	21世紀をめざす医学教育	吉田	修
(医学教育における過保護	鈴木	淳一
Vol. 15 No. 1	基礎医学教育	中川	米造
(S.59)	生涯教育	中川	米造
;	教育媒体	中川	米造
4	発見学習	中川	米造
Ę	一貫性のある医学教育・研修	中川	米造
(教授一学習法	中川	米造
Vol. 16 No. 1	女子医学生と女医	堀	原一
(S. 60)	"Garbage-in, garbage-out"	堀	原一
	コミュニケーション	堀	原一
4	健康教育	堀	原一
	医学教育はどのように変わったか	堀	原一
(昭和60年は医学教育にとって…	堀	原一
Vol. 17 No.	医学生の Career Choice	林	茂
(S. 61)	医師国家試験の改善と今後の方向	林	茂
	質問と発問	林	茂
	医学教育通巻100号	林	茂
	ら 情報時代の医学教育	林	茂
	う 教育方法としての POMR	林	茂
	プライマリ(ヘルス)ケアの卒前教育	鳥居	有人
	医学教育改善の方向一病人は最高の師	織畑	秀夫
	態度学習	鳥居	有人
	学ぶことは先生や先輩を真似することである	織畑	秀夫
	5 医学教育における分化と総合	織畑	秀夫
	5 医学教育における組織開発	織畑	秀夫
	教えることは学ぶことである	織畑	秀夫
	と 医学教育と情報処理	田中	勧
	基本路線	田中	勧
	反復練習	田中	勧
	ら 医学教育・卒後研修改善の方向	田中	勧
	が 卒直後臨床研修	田中	勧
	教育者の教育への動機づけ――臨床家の専門馬鹿はいただけない		一正
	入学者選抜――変動とさらなる改善へ	星野	一正
	の 研究第一主義者	星野	一正
	医療と一般教養	高久	史麿
	:	高久	
	の 刑付される区間隊を水めて 5 高等教育の教育評価	高久	史麿
			史麿
	病診連携と生涯教育	尾島	昭次
	の医学教育の研究	尾島	昭次
	8 医学系大学院の現状と問題点	尾島	昭次
	医療の第一歩	畑尾	正彦
	国際化時代へ向けての医学教育	畑尾	正彦
	6 自己教育力	畑尾	正彦
	"目的には手段を選ばず"はありえない	岩渕	勉
	2 大学の臨床教育と医療的課題	岩渕	勉
;	3 英才教育と偏差値教育	岩渕	勉

表1. つづき

	24.		
	第23回日本医学会総会	堀	原一
	大学設置基準の改正	堀	原一
(; 大学の自己点検・自己評価	堀	原一
Vol. 23 No. 1	大学設置基準は変わったが…	斎藤	宣彦
(H.4)	· 卒直後臨床研修考	斎藤	宣彦
- ;	3 無国境時代に向かって	斎藤	宣彦
4	生涯養育――評価の重要性	平野	寛
	5 卒後臨床研修──「研修の場」から「研修プログラム」へ	平野	寛
(う 卒前教育――医師としての態度の教育とその評価	平野	寛
Vol. 24 No. 3	講堂の構造	中川	米造
(H.5)	2. 一本橋	中川	米造
;	3 患者さんが先生	中川	米造
4	入学者選抜と医学生の資料	橋本	信也
į	5 生涯教育と習慣形成	橋本	信也
(5 医学博士と専門医	橋本	信也
Vol. 25 No. 1	信念と真実	福井	次矢
(H.6)	2 知識とメタ知識	福井	次矢
;	3 海図と艫,舵	福井	次矢
4	医師患者関係	細田	瑳一
	5 臨床研修と予測	細田	瑳一
	5 卒前臨床実習(BSL)	細田	瑳一

表 2. 巻頭言 (提言) (1969~1994 Vol.1.1~Vol.25.1)

				衣 2. 苍頭音(旋音)(1909° ○1994 VOI.1.1° ○ VOI.25.1)		
S45	Vol. 1	No.		「医学教育」の創刊にあたって	牛場	大蔵
				医学教育の重要性	冲中	重雄
			3	医学教育のおくれと反省	篠田	糺
				医学教育と百貨店と演劇	緒形	富雄
			5	医者の人間形成	小川	鼎三
			6	人と人とのふれ合いによる教育	高津	忠夫
46	Vol. 2	No.	1	解剖学に因んで	平沢	興
			2	基礎医学と臨床医学	小林	芳人
			3	卒業後教育について	榊原	仟
			4	実習重視の再検討	牛場	大蔵
			5	医学教育の近代化に思う	大島	正光
			6	無題	青柳	安誠
47	Vol. 3	No.	1	「医学教育」刊行3年目を迎えて	牛場	大蔵
			2	自らを省みて現在に望むこと	三浦	運一
			3	医師の生涯教育について	武見	太郎
			4	英国医学教育雑感		羊太郎
				全体の中での個々の位置	後藤	敏郎
				実証的医学教育論	緒方	富雄
48	Vol 4	No		これからの医学教育	永沢	茂
10	, 01,	1.0.		新しい医学教育の方向はどこか	黒川	利雄
				これからの日本の医師卒後教育	塚本	憲甫
				医のあり方と医学教育	西丸	和義
				臨床医をつくる教育	福田	保
				医学と医療	中山	恒明
40	Vol 5	Mo		医学教育における医術と医学と医道	問田	直幹
49	v 01. 3	NO.		専門医と一般医	赤倉	一郎
				医師国家試験		登
					木村	
				これからの卒前基礎医学教育	大高	裕一
				医学教育における問題点	岡島	道夫
			б	「国立の大学医学部医科大学の入学試験について」―その序論	松永	藤雄
	TT 1 C	N T		(私立医大入試の問題点)	桑原	章吾
50	Vol. 6	No.		Teacher Training	牛場	大蔵
				長期計画の必要性	吉利	和
51	Vol. 7	No.	1	医学教育に関する全国組織の提唱	牛場	大蔵
				一日本医学教育学会創立第8年を迎えて		
52	Vol. 8	No.		医学に思う	遠城寺	
			3	医学部・医科大学における入学者選抜方法	日本医学教育	
				―とくに共通一次試験と関連して―	選抜検討す	委員会
53	Vol. 9	No.	1	日本医学教育学会第10周年を迎えて	牛場	大蔵
				北欧をめぐって	懸田	克躬
				"医師過剰"への対処	牛場	大蔵
57	Vol. 13	No.	1	プライマリ・ケア教育	九嶋	勝司
58	Vol. 14	No.	1	医学教育について	山田	守英
59	Vol. 15	No.	1	医科大学の規模について	名取	禮二
60	Vol. 16	No.	1	日本医学教育の問題点	太田	邦夫
61	Vol. 17	No.	1	医療パートナーの強さの問題	小林	隆
				医道の本質	森本	正紀
	Vol. 19				森	亘
				教育改革	塚原	勇
				教師と学生	古川	哲二
				実りある留学生制度の推進を望む	藤井	正道
				医学教育と研究相補性	菊地	吾郎
				滋賀医科大学教育・研究改革の現状	佐野	晴洋
				医学教育の改革	石田	正統
	, 01, 20	110.	1	に 1 3 7 日 7 男子	ΉЩ	יו לווי

表3. イラスト・コラム (Vol.13 No.1~Vol.25 No.6)

X7 1 10 37 -	及3. イノヘト・コノム (VOI, 13 NO, 1 * VOI, 23 NO, 0)	ΔΔ- L -	油
	医学部6年間,知識の詰込みは何をもたらす?どう変わる?――側頭葉,前頂葉,前頭葉 立場を添えてこれ。これはよりの特性が2――では、「教授禁堂」が教師に共通する欠点な	鈴木	净一
(S. 57) 2	立場を変えること、これはヒトの特技か?――では、「教授錯覚」が教師に共通する欠点な	鈴木	洹
0	のは、何故か	鈴木	
	毎日の食餌・毎日の知識――ハゲワシ・ハイエナの観察から―― 一面的評価の重要性――「外見」こそが,はじまりで,おわり――	鈴木	
		鈴木	
	「早呑みこみ」は,「遅呑みこみ」よりすぐれているか時間の制約――卒前医学教育の6年間,原稿締切りの期限切れ,演説時間延長など	鈴木	
	言語について考える――国際コミュニケーション年に当たって	鈴木	
	"情緒力"について	鈴木	
	- 環報力 でうべて 完成したトリと未完成のヒト──無限の努力の必要性と無限の可能性を秘めた宿命:学習──	—— 本口、//	13-
3	元成した下すと木九成のと下一無成の万万の必要性と無限の特化性を依めた旧印・于日	鈴木	淳一
1	新人教育――重大な刷り込み	鈴木	
	「言葉」――こんなにも大事な、それにも拘わらず、もっとも不用意に使われるもの	鈴木	
	Peer Evaluation——仲間評価,評判——この重要な全人的評価		淳一
	医学はサイエンスとアート		正和
	Not For Years, But Forty Years	阿部	
	人との出会い,本との出会い	阿部	
	シラケとヒラケ	阿部	正和
	STUDENT DEVELOPMENT	中川	
	リラックス	中川	
	非常識集団の認識	岩渕	勉
	プログラム学習 programmed learning	岩渕	勉
	学習の法則	岩渕	勉
	医学教育――形と心 独・米に学んだこと、学ばなかったこと	尾島	昭次
5	医学教育――どう変ったか	尾島	昭次
	医学教育——knowing から doing へ	尾島	昭次
Vol. 17 No. 1	Minimum Requirement	田中	勧
(S. 61) 2	Early Exposure	田中	勧
3	態度の評価に馴染む	田中	勧
4	マナーは能力	畑尾	正彦
5	やらないことの教育	畑尾	正彦
6	支点の視点	畑尾	正彦
Vol. 18 No. 1	若者たちの言葉と文字	橋本	信也
(S. 62) 2	これでよいのか卒後臨床研修	橋本	信也
3	幕末の医学教育「医戒」をみなおす	橋本	信也
4	バイオエシックス(Bioethics)	福間	誠之
5	インフォームド・コンセント	福間	誠之
6	Quality of Life (QOL)	福間	誠之
Vol. 19 No. 1	自己決定権(Autonomy)	福間	誠之
(S.63) 2	仁は任なり,任は忍に通ず	林	茂
3	「医師国家試験出題基準」の改定	堀	原一
4	曲学阿世	堀	原一
5	社会のなかの大学医学部が当面するジレンマ	堀	原一
	猫の目入試改革よどこへ行く	堀	原一
Vol. 20 No. 1		西園	昌久
	親は自分が育てられたごとく子を育てる	西園	昌久
	医者の世襲	西園	昌久
4	医学教育の輸出	加我	君孝
5		加我	君孝
6	Malpractice & Crime	加我	君孝

表 3. つづき

Vol. 21 No. 1	個人の意志の尊重	星野	一正
(H _• 2) 2	患者の痛みのわかる医師	星野	一正
3	医学博士と北米の Ph. D. の違い	星野	一正
4	学生の臨床実習	高久	史麿
5	救急医学の教育	高久	史麿
6	医学生の倫理の教育	高久	史麿
Vol. 22 No. 1	認知的不協和	中川	米造
(H.3) 2	Andragogy	中川	米造
3	態度変容	中川	米造
4	プレゼンテーション	牛場	大蔵
5	慣れと狎れ	牛場	大蔵
6	自己(セルフ)	牛場	大蔵
Vol. 23 No. 1	ネームプレート	平野	寛
(H, 4) 2	アルマ・アタ宣言と東京宣言	平野	寛
3	ターミナル・ケアー死の教育	平野	寛
4	持続性野次馬根性の勧め	斎藤	宣彦
5	新しい臨床研修案:財源をどこに	斎藤	宣彦
6	夜明けの心配	斎藤	宣彦
Vol. 24 No. 1	自己評価	田中	勧
(H.5) 2	ムンテラ―—informed consent——	田中	勧
3	忘却曲線	田中	勧
4	変わるということ	尾島	昭次
5	医学教育の変革	尾島	昭次
6	教育改革の推進因子	尾島	昭次
Vol. 25 No. 1	我流の功罪	徳永	力雄
(H.6) 2	教育改革と自己点検・評価	徳永	力雄
3	学生・教師関係	徳永	力雄
4	病院の病気	平野	寛
5	ドクターズルール	平野	寛
6	学内ワークショップをめぐって	平野	寛

表 4. カリキュラム研究会 (第1回~第61回)

	表 4.カリキュラム研究会 (第 1 回~第61回)
第1回	打合せ会のみ
第2回(1972)	鹿取 信(北里大学)
) v = (2012)	「北里大学医学部のカリキュラムー系別総合教育を中心」
第3回(1972)	織畑 秀夫 (東京女子医科大学)
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	「卒前教育における新しいカリキュラム」
第4回(1972)	Ivan N. Mensh (UCLA)
×14 - M (== , = ,	「米国の医学教育の現況」
第5回(1972)	米 勒 (北京医学院)
,,, - M ,== ,=,	「中国における医学教育の現況について」
第6回(1972)	落合京一郎(埼玉医科大学)
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	「医学教育と行動科学」
第7回(1972)	岡島 道夫(東京医科歯科大学)
2,1	「医学教育と医療の中における評価」
第8回(1972)	楢橋 敏夫 (Duke 大学)
	「Duke 大学医学部における医学教育カリキュラム」
第9回(1973)	Harold J. Simon (San Diego 大学)
,,, - ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	「San Diego 大学医学部のカリキュラム」
第10回(1973)	吉岡 昭正(順天堂大学)
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	「医学教育における評価(その2)」
第11回(1973)	Caroline E. Hulme (Oxford 大学)
	「イギリスにおける医学教育の現状」
第12回(1973)	H. Baitsch (Ulm 大学)
	「人類遺伝学-研究の発展と医学教育における役割」
第13回(1973)	中山健太郎(東邦大学)
	「医学教育における評価(その3)」
第14回(1973)	日野原重明(聖路加国際病院)
	[The Problem—Oriented Medical Record System]
第15回(1973)	西岡久寿弥(国立がんセンター)
	「北京医学院における教育と研究」
第16回(1973)	館 正知(岐阜大学)
	「シドニーにおける Teacher Training のワークショップに参加して」
第17回(1973)	吉岡 昭正(順天堂大学)
	「シドニーの医学教育ワークショップに参加して」
第18回(1974)	尾島 昭次(岐阜大学)・鈴木淳一(帝京大学)
	「シドニーにおける WHO ワークショップ"Curriculum Development"参加報告」
第19回(1974)	宮本 裕(経営コンサルタント)
	「会議のもち方について」
第20回(1974)	堀 原一(筑波大学)・田中 勧(国立東京第二病院)
	「シドニーにおける WHO ワークショップ"医学教育における評価"参加報告」
第21回(1974)	Rodert S. Northrup (Hawaii 大学)
	「日米医学教育の比較」
第22回(1974)	W. H. Wagmann (Davis 医科大学)
	「米国医学教育における評価の問題,入試,国試,その他」
第23回(1974)	Kwang Lee dow (Melbourne 大学) • David R. Hunt (St. George 病院) • David Macfadyen (New South
	Wales 大学)
	「医学教育における少人数教育について」
第24回(1974)	岩渕 勉(佼成病院)・山下 文雄(久留米大学)
	「教育学習方法に関する WHO 国際ワークショップ報告」
第25回(1974)	堀 原一(筑波大学)
	「McMaster 大学の自己学習方式と Illinois 大学の Teacher Training のプログラム」

表 4. つづき

第26回(1974) C. D. Cook (Yale 大学) 「Yale 大学における医学教育」 第27回(1975) John Z. Bowers (Josiah Macy Jr. 財団) 「日本と世界の医学教育・最近の状勢」 第28回(1975) Howard S. Barrows (Mcmaster 大学) 「McMaster 大学の医学教育カリキュラムの科学的模拠」 第29回(1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学) 「The Relevance of a Curriculum]		表 4. つづき
第27回 (1975)	第26回(1974)	C. D. Cook (Yale 大学)
「日本と世界の医学教育・最近の状勢 Howard S. Barrows (Mcmaster 大学)		「Yale 大学における医学教育」
#32回 (1975) Howard S. Barrows (Memaster 大学) [MeMaster 大学の医学教育カリキュラムの科学的根拠] 第29回 (1975) 名前部価についてのセミナー」 第30回 (1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学) [The Relevance of a Curriculum] David R. Hunt (New South Wales 大学) [There in Programme Evaluation]	第27回(1975)	John Z. Bowers (Josiah Macy Jr. 財団)
「McMaster 大学の医学教育カリキュラムの科学的根拠 第29回(1975) George E. Millier (Illinois 大学) 「教育評価についてのセミナー」 第30回(1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学) 「The Relevance of a Curriculum」 David R. Hunt (New South Wales 大学) 「The Relevance of a Curriculum」 David R. Hunt (New South Wales 大学) 「Trends in Programme Evaluation」 木村 老 (久留米大学) 展近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 康近のアメリカの医学教育 原子による思りる William に関するワークショップ参加報告 『およる関係 日本の医療および報告の事しいカリキュラム Joel H. Broida 日本の医療および報告を含める医学教育のための助言 株 度 (川崎市立川崎南館) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告 『第35回(1976) 株 度 (川崎市立川崎南館) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告 『第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字南窓) 「WHO アークショップ "Instructional Design" 参加報告 『第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字南窓) 「WHO アーグ・とおける医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字南窓) 「WHO アーグ・とおける医学教育と所)下 田 智久(厚生省) 「村島社的 Services Manpower Development Workshop に参加して 第41回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「大海三太里園における医学教育の自由」 第42回(1982) 「本国と東国における医学教育の自由」 第43回(1982) 「公司・本国・医・「公司・大学医学教育の印象」 第43回(1982) 「本国・医・国・「本・学医学教育の印象」 第43回(1983) 曾我博文(自治医科大学) 「議費とない医学教育といての 2、3 の問題 第43回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構) Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ニューズスラビアー間の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構) Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「中国の医学教育・諸問題 Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「中国の医学教育・諸問題 Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「中国の医学教育の諸問題 Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young I Kim (Seoul 大学) 「中国の医学教育の諸問題 Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「アイ・ドバックと評価 ーをの方法と実践 第49回(1985) Gordana Pavlekovic (Zagreb 大学) 「アイ・ドバックと評価 ーをの方法と実践 Gordana Pavlekovic (Zagreb 大学) 「アイ・ドバックと評価 ーをの方法と実践 Gordana Pavlekovic (Zagreb 大学)		「日本と世界の医学教育・最近の状勢」
#32回(1975) George E. Miller (Illinois 大学) [教育評価についてのセミナー] #33回(1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学) 「The Relevance of a Curriculum」 David R. Hunt (New South Wales 大学) 「Trends in Programme Evaluation」 #33回(1976) 木村 登 (久留米大学) 「最近のアメリカの医学教育」 #32回(1976) 吉田 修 (京都大学)・戸倉 康之 (国立栃木病院) 「シドニーにおける WHO "評価" に関するワークショップ参加報告] #33回(1976) Alexander Leaf (Harvard 大学) 「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム」 Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言」 # 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] #35回(1976) 株 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO アークショップ "Instructional Design" 参加報告] #37回(1979) 福間 誠之 (京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 #38回(1979) 西 三郎 (国立公衆衛生病院)・下田 智久 (厚生者) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して #39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の自印閲覧」 Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象 #40回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米電医学教育についての2,3 の問題 #42回(1984) 母子語版学教育の事態の #43回(1984) 母子語版学教育の事態の #44回(1984) 母子語版学教育の事態の #44回(1984) 母子語版学教育の事態の #45回(1985) 母子語版学教育の事態の #45回(1985) 「本語本医学教育一Newcastle 大学医学部の例 #54回(1985) 「本語本医学教育・Newcastle 大学医学部の例 #54回(1985) 「本語本医学教育の表現、保養組制度、医学教育よび日本との共同研究 #54回(1985) 「本語本医学教育の表現、保養組制度、医学教育なよび日本との共同研究 #54回(1985) 「大部底の養成の養成の方策について #54回(1985) 「大部本医の養成の養成の方策について #54回(1985) 「大部本医の養成の養成の方策について #54回(1985) 「大部本医学教育の対策に対しているよび日本との共同研究 #54回(1985) 「大部本医学教育の方策について #54回(1985) 「大部本医学教育の方策について #54回(1985) 「大部本医学教育の方策について #54回(1985) 「大部本医学教育の方策について #54回(1985) 「大部を成立を対しているよび日本といいで (公園中と大学) 「中国の医学教育の諸問題 #54回(1985) 「大部本医学教育の方策に (公園中と大学) 「中国の医学教育の講問題 #54回(1985) 「大部本医学教育の大学) 「中国の医学教育の講問題 #54回(1985) 「公園和 Pavlekovic (公園中と大学) 「フェース・アンクと評価・その方法と実践 #54回(1985) 「公園和 Pavlekovic (公園中と大学) 「フェース・アンクと評価を入の方法と実践 #54回(1985) 「公園和 Pavlekovic (公園中と大学) 「フェース・アンクロ・アンのよび日本に対しているよび日本に対しているよび一体のよびでは、アンのよびで	第28回(1975)	Howard S. Barrows (Mcmaster 大学)
第30回(1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学)		「McMaster 大学の医学教育カリキュラムの科学的根拠」
第30回(1975) Barry G. Wren (New South Wales 大学) 「The Relevance of a Curriculum」 David R. Hunt (New South Wales 大学) 「Trends in Programme Evaluation」 *### ****	第29回(1975)	George E. Miller (Illinois 大学)
「The Relevance of a Curriculum David R. Hunt (New South Wales 大学) 「Trends in Programme Evaluation 第31回(1976)		「教育評価についてのセミナー」
第31回(1976) 木村 巻 (人留米大学) 「形中の核 in Programme Evaluation」 第32回(1976) 古田 修 京都大学)・戸倉 康之(国立栃木病院) 「シドニーにおける WHO 『評価』 に関するワークショップ参加報告」 第33回(1976) 右田 修 京都大学)・戸倉 康之(国立栃木病院) 「シドニーにおける WHO 『評価』 に関するワークショップ参加報告」 第33回(1976) Alexander Leaf(Harvard 大学) 「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム」 第34回(1976) Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言」 第35回(1976) 林 茂 川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告」 第36回(1976) Kwang Wook Ko(Seoul 大学) 「ウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 稲間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して「その2)」 第39回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して「未知と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) 体に Cox(WHO/RTTC) 「画成的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我郡博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育・Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラピアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育・指導医の養成の方族について) 「医学教育・指導医の養成の方族について) 第46回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「アイドバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第30回(1975)	Barry G. Wren (New South Wales 大学)
「Trends in Programme Evaluation」		-
### 第31回(1976) 木村 登 (久留米大学) 「最近のアメリカの医学教育] ### 第32回(1976) 吉田 修 (京都大学)・戸倉 康之 (国立栃木病院) 「シドニーにおける WHO "評価" に関するワークショップ参加報告] ### ### ### ### ### ### ### ### ### #		David R. Hunt (New South Wales 大学)
第32回(1976) 吉田 修 (京都大学)・戸倉 康之 (国立栃木病院) [シドニーにおける WHO "評価" に関するワークショップ参加報告] 第33回(1976) Alexander Leaf (Harvard 大学) [Harvard 大学を学部の新しいカリキュラム] 第34回(1976) Joel H. Broida [日本の医療および総合的な医学教育のための助言] 第35回(1976) 林 茂 (川崎市立川崎病院) [WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] 第36回(1976) 林 茂 (川崎市立川崎病院) [WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] 第36回(1976) [WHO アークショップ "Instructional Design" 参加報告] 第37回(1979) 編問 誠之 (京都第一赤十字病院) [WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して (その2)] 第38回(1979) 西 三郎 (国立公泰衛生病院)・下田 智久 (厚生省) [Health Services Manpower Development Workshop に参加して [年の2]] 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) [イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象] 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) [最近の米国医学教育についての2,3の問題] 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) [職床的実験育造の評価] 第43回(1983) 第28部時文 (自治医科大学) [講義をしない医学教育一Newcastle 大学医学部の例] 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) [エーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究] 第45回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) [下中国の医学教育の諸問題] 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) [Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) [アノードバックと 下に、アンカンド・アンリンド間 (アン・アンリンド・アンリンド間 (アン・アン・アン・アンリンド・アンリンドのよりに対している。 「アン・アンリンド・アンリンド間 (アン・アンリンド・アンリンド・アンリンドのよりに対している。 「アン・アンリンド・アンリンド間 (アン・アンリンド・アンリンド・アンリンド・アンリンド間 (アン・アンリンド・アンリン		
#32回(1976) 吉田 修 (京都大学)・戸倉 康之 (国立栃木病院) 「ドドニーにおける WHO "評価" に関するワークショップ参加報告] #33回(1976) Alexander Leaf (Harvard 大学) 「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム] #34回(1976) Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言] #35回(1976) 林 茂 川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] #36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ウッカ大学における医学教育を NTTC」 #37回(1979) 福間 誠之 (京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して (その 2)] #38回(1979) 西 三郎 (国立公衆衛生病院)・下田 智久 (厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して] #39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 #40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象] #41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての 2 , 3 の問題] #42回(1982) と (本の (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価] #43回(1983) 曽我部博文 (自治医科大学) 「講義をしない医学教育・Newcastle 大学医学部の例] #44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「エーゴスラピアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究] #45回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題 [#47回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題 [#47回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現別	第31回(1976)	
第33回(1976) Alexander Leaf(Harvard 大学) 「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム」 第34回(1976) Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言」 第35回(1976) 林 茂 川崎市近川崎海路) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告」 第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して 第39回(1979) R. D. Tschirgi(California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch(UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers(Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) 株に Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽敦部博文 自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica(Zagreb 大学) 「エーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育・諸園」 第47回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現別」 第48回(1985) Gordana Pavleković(Zagreb 大学)		
第33回(1976) Alexander Leaf (Harvard 大学) 「Harvard 大学医学部の新しいカリキュラム」 第34回(1976) Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言] 第35回(1976) 林 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] 第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) [臨床的実験行為の評価] 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育一Newcastle 大学医学部の例] 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究] 第45回(1985) Tamas Fulöp(WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「序学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第32回(1976)	
第34回(1976)	****	
第34回(1976) Joel H. Broida 「日本の医療および総合的な医学教育のための助言」 株 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告」 第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育一Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラピアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第33回(1976)	
第35回(1976) 林 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告」 第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎 (国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 「幼の木国医学教育についての2、3の問題」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2、3の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育 ―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラピアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	#F0.4 [7 (10.52)	
第35回(1976) 林 茂 (川崎市立川崎病院) 「WHO ワークショップ "Instructional Design" 参加報告] 第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 編制 誠之 (京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して (その2)」 第38回(1979) 西 三郎 (国立公衆衛生病院)・下田 智久 (厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文 (自治医科大学) 「講義をしない医学教育へNewcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」	弗34四(1976)	
第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育と NTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育~Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「エーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「下屋で付ねる Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	笠25回 (1076)	
第36回(1976) Kwang Wook Ko (Seoul 大学) 「ソウル大学における医学教育とNTTC」 第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi(California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育といての2,3の問題」 ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我都博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica(Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	弗35凹(1970)	
第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育 ― Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学)「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学)「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学)「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第26回 (1076)	
第37回(1979) 福間 誠之(京都第一赤十字病院) 「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3 の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曾我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育・Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学)「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」	第30回 (1970)	
WHO/RTTC Intercountry Workshop "Faculty Development" に参加して(その2)」 第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省) 「Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica(Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第37回(1979)	
第38回(1979) 西 三郎(国立公衆衛生病院)・下田 智久(厚生省)	N101 [2] (1313)	
Health Services Manpower Development Workshop に参加して」 第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) [米国と英国における医学教育の今日の問題] 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) [イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象] 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) [最近の米国医学教育についての2,3の問題] [最近の米国医学教育についての2,3の問題] 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTC) [臨床的実験行為の評価] 第43回(1983) 曾我部博文(自治医科大学) [講義をしない医学教育—Newcastle 大学医学部の例] 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) [ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究] 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) [医学教育・指導医の養成の方策について] 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) [中国の医学教育の諸問題] 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) [Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況] 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) [フィードバックと評価ーその方法と実践] 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) [フィードバックと評価ーその方法と実践] 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) [フィードバックと評価ーその方法と実践]	第38回(1979)	
第39回(1979) R. D. Tschirgi (California 大学 San Diego 医学部) 「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての 2,3 の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育—Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)),100 E (1010)	
「米国と英国における医学教育の今日の問題」 第40回(1980) Gabriel M. Danovitch (UCLA) 「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」 第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての 2 , 3 の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文 (自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価―その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第39回(1979)	
第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての2,3の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラピアー国の概要、保健制度、医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavlekovič (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavlekovič (Zagreb 大学)		
第41回(1982) John Z. Bowers (Rockefeller 財団) 「最近の米国医学教育についての 2 , 3 の問題」 第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビア―国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価―その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第40回(1980)	Gabriel M. Danovitch (UCLA)
最近の米国医学教育についての2,3の問題 第42回(1982) ken Cox(WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」		「イスラエル Ben-Gurion 大学医学教育の印象」
第42回(1982) ken Cox (WHO/RTTC) 「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第41回(1982)	John Z. Bowers (Rockefeller 財団)
「臨床的実験行為の評価」 第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)		「最近の米国医学教育についての2,3の問題」
第43回(1983) 曽我部博文(自治医科大学) 「講義をしない医学教育—Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica(Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center(Sydney)と National Teacher Training Center(Soul)の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković(Zagreb 大学) 「フィードバックと評価—その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković(Zagreb 大学)	第42回(1982)	ken Cox (WHO/RTTC)
「講義をしない医学教育—Newcastle 大学医学部の例」 第44回(1984) Berislav Skupnjak(保健開発機構)・Miroslav Mastilica(Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center(Sydney)と National Teacher Training Center(Soul)の現況」 第48回(1985) Gordana Pavlekovič(Zagreb 大学) 「フィードバックと評価—その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavlekovič(Zagreb 大学)		「臨床的実験行為の評価」
第44回(1984) Berislav Skupnjak (保健開発機構)・Miroslav Mastilica (Zagreb 大学) 「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young II Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第43回(1983)	曽我部博文(自治医科大学)
「ユーゴスラビアー国の概要,保健制度,医学教育および日本との共同研究」 第45回(1985) Tamas Fülöp(WHO)・Jacobus M. Greep(Limburg 大学)・Alan Sheldon(Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella(Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake(New South Wales 大学)・Young Il Kim(Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center(Sydney)と National Teacher Training Center(Soul)の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković(Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković(Zagreb 大学)		「講義をしない医学教育―Newcastle 大学医学部の例」
第45回(1985) Tamas Fülöp (WHO)・Jacobus M. Greep (Limburg 大学)・Alan Sheldon (Harvard 大学) 「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavlekovič (Zagreb 大学)	第44回(1984)	
「医学教育・指導医の養成の方策について」 第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)		
第46回(1985) J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学) 「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第45回(1985)	
「中国の医学教育の諸問題」 第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)		
第47回(1985) Raja Bandaranayake (New South Wales 大学)・Young Il Kim (Seoul 大学) 「Regional Teacher Training Center (Sydney)と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価ーその方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第46回(1985)	J. S. Gonnella (Thomas Jefferson 大学)
「Regional Teacher Training Center (Sydney) と National Teacher Training Center (Soul) の現況」 第48回(1985) Gordana Pavlekovič (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価―その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavlekovič (Zagreb 大学)		
第48回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学) 「フィードバックと評価―その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第47回(1985)	
「フィードバックと評価―その方法と実践」 第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	W	
第49回(1985) Gordana Pavleković (Zagreb 大学)	第48回(1985)	
	Mr. 10 == (100 =)	
/ フイマリ・ヘルス・ケアとユーコスフヒア 	弗49回(1985)	
		ノフイ ヾリ・ヘルス・ケテとユーコスプピア]

表 4. つづき

第50回(1986)	橋本 信也 (東京慈恵会医科大学)
	「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Management of Change in Training Institutions" に参加し
	7]
第51回(1986)	Lyn Robinson (McMaster 大学)
	「McMaster 新構想大学の担当する地域医師のための生涯教育」
第52回(1986)	Zelimir Jaksić (Zagreb 大学)
	「Project "Continuing Education for Primary health Care" の進行・現況について」
第53回(1987)	斉藤 和雄 (北海道大学)・平野 寛 (杏林大学)
	「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Implementation of Innovations in Medical Education" に参
	加して」
第54回(1987)	Ivan Damjanov (Thomas Jefferson大学)
	Confidence Testing in Pathology Education
第55回(1988)	Djuro Dezelić (Zagreb 大学) • Spaso Vulić (保健開発機構, Zagreb, Yugoslavia)
	Progress Report on the Project "Continuing Education for Primary Health Care" and Demonstration
	of Educational Multimedia Center Production
第56回(1991)	Mladenka Vrcić (Zagreb 大学) • Zelimir Jaksić (Stampar 大学)
	「ユーゴスラビアにおけるプライマリ・ケアの生涯教育のためのユニークなビデオの開発」
第57回(1991)	J. S. Gonnela (Thomas Jefferson 大学)
***	[Jefferson Longitudinal Study]
第58回(1993)	Vuong Hung(ベトナム厚生省局長・Hanoi 医科大学)
	「ベトナムと日本の医学教育」
	Maura Brennan(順天堂大学・Baystate 病院)
##F0 [] (1000)	「卒後早期の臨床教育の日米比較」
第59回(1993)	高野 光司(Göttingen 大学)
## CO [(1004)	「ドイツの医学教育―大学前教育も含めて」
第60回(1994)	Clara A. Callahan (Thomas Jefferson 大学)
#7.C1 □ (1.00.4)	「ジェファソン医大(JMC)の卒前医学教育」
第61回(1994)	Yash Pal Kapur (Michigan 大学) · Suchitra Prasansuk (Mahidol 大学)
	Global Programs for the Prevention of Hearing Impairment, Deafness and Communication
	Disoders

表 5. 特 集

- 第1巻 (1970年)
 - 1号。医学教育の目的
 - 2号。大学病院
 - 4号。欧米における卒後臨床教育
 - 5号。医学進学課程
- 第2巻 (1971年)
 - 1号。基礎医学教育
 - 5号、医学教育における最近の技術
- 第3巻(1972年)
 - 1号。日本医学教育の現況
 - 2号、社会医学教育
 - 3号。医師の生涯教育
 - 4号。"パラメディカル"教育の現状と将来
 - 5号。医学教育者の養成
 - 6号、医学教育者の養成(続)
- 第4巻(1973年)
 - 2号。 歯学教育の現状
 - 3号。卒後教育の一環としての各種セミナー
 - 4号。学部学生教育における救急医療
 - 5号、教育病院
- 第5巻 (1974年)
 - 1号。医学教育と研究
 - 2号. 医学教育と学会
 - 3号、家庭医
 - 4号。卒前医学教育の再編成
 - 5号。医師国家試験改善の方向
 - 6号。入試の現状と問題点
- 第6巻 (1975年)
 - 2号。基礎医学実習のあり方
 - 3号. 診断学実習・臨床実習あり方
 - 4号. 教育媒体
 - 5号. Health Manpower 教育の現況・将来の展望と問題点
- 第7巻 (1976年)
 - 1号。医師国家試験の改善―昭和49年度国家試験の改善
 - 2号. 医学教育におけるインテグレーテッドカリキュラムとしての基礎医学―人間生物学
 - 3号。医学および看護学カリキュラム計画
 - 4号. 基礎医学とその教員の問題点
- 第8巻 (1977年)
 - 1号。医師の職業的態度
 - 2号, 医学校における入学者選抜と改善の方向
 - 3号。医学・看護学教育における新しい教授―学習方法の開発
 - 4号。医学教育における教育工学
- 第9巻 (1978年)
 - 1号。医学教育カリキュラムにおける過剰と欠落
 - 2号。プライマリ・ケアとその教育
 - 3号、医進課程における教養科目の教育
 - 4号。医学部卒前教育において、学生のモチベーションを高める方法、高まった事例
 - 4号。新入学生に対するオリエンテーション
 - 6号。卒後臨床研修における救急医療の現状と将来へのアプローチ
- 第10巻 (1979年)
 - 1号、患者教育の現状と展望
 - 2号。医学教育における評価
 - 3号、医学校における入学者選抜はどう変わりつつあるか―改善への歩みと54年度選抜のまとめ
 - 4号。衛生学・公衆衛生学教育
 - 6号, 小児医学教育の特殊性

第11巻 (1980年)

- 1号. 教育管理者の役割
- 2号。神経科学の卒前教育
- 3号。死をみとる臨床と医師の人間教育
- 4号。医学教育の教科書

第12巻 (1981年)

- 1,2号。わが国における認定医・専門医などの制度とその教育
- 3号。医学教育における患者面接技法
- 4号、一般教育課程と専門課程のインテグレーション
- 6号。医学教育のためのワークショップ

第13巻 (1982年)

- 1号. 試験問題一作り方を中心として、その良否に及ぶ
- 3号。創造性の教育
- 4号。医師国家試験の現状と2,3の改善点

第14巻 (1983年)

- 1号。留年
- 2号、筆記試験以外の評価の進め方
- 3号。医学教育と行動科学
- 4号。医学校における一般教育

第15巻(1984年)

- 1号。基礎医学教育
- 2号。生涯教育
- 3号。教育媒体
- 6号。教授一学習方法

第16巻(1985年)

- 1号、女子医学生と女医
- 4号。健康教育

第17巻 (1986年)

- 1号. 医学生の Career Choice
- 2号、医師国家試験の改善と今後の方向
- 6号. 教育方法としての POMR

第18巻 (1987年)

- 1号。プライマリ(ヘルス)ケア卒前教育
- 3号。態度学習
- 6号。医学教育における組織開発

第19巻(1988年)

- 2号, 医学教育と情報処理
- 6号。卒直後臨床研修

第20巻 (1989年)

- 1号。教育者の教育への動機づけ
- 2号。入学者選抜一変動とさらなる改善へ
- 6号。高等教育の教育評価

第21巻 (1990年)

- 1号。病診連携と生涯教育
- 3号. 医学系大学院の現状と問題点

第22巻 (1991年)

なし

第23巻 (1992年)

- 3号。卒前臨床実習の改善
- 4号。大学設置基準の改正をめぐって

第24巻 (1993年)

- 1号、医師国家試験の改善をめぐって
- 2号。選抜方法の改善
- 6号。医学教育における自己点検・評価

第25巻 (1994年)

- 1号。医学教育における自己点検・評価(続)
- 2号。国際化時代の医学教育
- 3号。国際化時代の医学教育(続)

表 6. 連 載

- I. 保健ケアのための要員:教育計画のケース・スタディ (1978)
- 11巻 5号 連載にあたって- (その1)
 - 6号 ミシガン州立大学医学部および Upper Peninsula 健康教育協会,合衆国ミシガン地区:Upper Peninsula 医学教育プログラム (計画) (その 2)
- 12巻1号 カナダ McMaster 大学の医学教育プログラム:問題解決能力の開発(その3)
 - 2号 オランダ Limburg 大学:新しい医学教育の開発(その4)
 - 3号 イスラエル Ben Gurion 大学ヘルスサイエンスセンター:地域医療への医学教育(その5)
 - 4号 WAMI プログラム:ワシントン医科大学(シアトル,ワシントン州),脱中心化,地方分散型医学教育(その6)
 - 5号 オーストラリア Newcastle 大学:新構想大学医学部の建設(最終回)
- II. すべての医学生を対象とした統計の上手な教え方
- 12巻1号 すべての医学生を対象とした統計の上手な教え方(その1)
 - 2号 すべての医学生を対象とした統計の上手な教え方(最終回)
- III. 保健医療要員教育カリキュラムの動向
- 13巻1号 統合医学カリキュラム (その1)
 - 2号 社会行動科学の医学教育カリキュラムへの導入(その2)
 - 3号 地域医療学および予防医学の興隆(その3)
 - 4号 選択科目の興隆(その4)
 - 5号 短縮医学教育カリキュラム (最終回)
- Ⅳ. 家庭医学教育カリキュラム
- 15巻 1号 1. 学生のための指導要項(1)
 - 2号 1. 学生のための指導要項 (2)
 - 3号 1. 学生のための指導要項 (3)
 - 4号 2. レジデントのための教育要項(1)
 - 6号 2. レジデントのための教育要項(2)
- Ⅴ. 教育媒体使い方シリーズ
- 16巻1号 1. 黒板・白板・模造紙・掛図
 - 2号 2. Note Taking
 - 3号 3. ピクチャーカセット
 - 4号 4. Simulator Model
 - 5号 5. CAI
 - 6号 6. 模型・標本・実物
- 17巻1号 7. 聴覚機器とくに心臓病診療技術の訓練における Simulator の利用
 - 2号 8. ビデオ学内放送システム
 - 3号 9. Written Media/プリント等
 - 4号 10. 科学映画
 - 5号 11. ブロークン・スクウェア・パズル
 - 6号 12. ブレイン・ストーミング
- 18巻1号 13. コミュニケーションゲーム,またはグループ・プロセス体験
 - 2号 14. ロールプレイ
 - 3号 15. 教室・実習室のレイアウト
 - 4号 16. マイクロティーチング
 - 5号 17. KJ法
 - 6号 18. BSL (Bed Side Learning)
- 19巻1号 19. 医学教育におけるコンピュータの利用
 - 3号 20. Stimulated Patient
 - 4号 21. 教室・実習室のレイアウト

VI. 保健医療行動科学の体験学習マニュアル

- 20巻1号 1. アイスブレーキング
 - 2号 2. ティーチ・イン
 - 3号 3. マイクロラボラトリー訓練
 - 4号 4. 読書会
 - 5号 5. 積極的傾聴法
 - 6号 6. 行動科学技法を基本とした医学概論
- 21巻1号 7. 医院内職員研修ワークショップ
 - 2号 8. バリント・グループ・ワーク
 - 3号 9. 応答演習

Ⅷ. 大学設置基準の一部改正に伴う対応/1

- 23巻6号 6年一貫教育を目指して一東京慈恵会医科大学の場合
 - 6号 聖マリアンナ医科大学におけるカリキュラム改定:その準備段階についての報告

	表 7. 出版物リスト
I. 機関誌	1978年版
医学教育 Medical Education (Japan)	1982年版('78~'82)
第1巻~第25巻(各巻6号)	1986年版('82~'86)
II. 出版物	1990年版('86~'90)
1)医学教育における評価と客観試験例題集	1994年版('90~'94)
編集/文部省科学研究費	5)医学教育と地域保健計画
医学教育総合班研究	監訳/中川米造・岩渕 勉・堀・原一
発行/篠原出版 1976年	発行/篠原出版 1984年
2)医学における教授―学習	6)期待される医師マナー/実践をめざして
訳/吉岡昭正	編集/日本医学教育学会
発行/篠原出版	発行/篠原出版 1988年
3)医学教育マニュアル (全5巻)	7)日本の医学教育―改革へのあゆみ―
監修/日本医学教育学会	編集/日本医学教育学会
編集/日本医学教育学会教育開発委員会	発行/篠原出版 1989年
発行/篠原出版	8) 医学教育技法マニュアル
1. 医学教育の原理と進め方 1978年	監修/日本医学教育学会
2. カリキュラムの作り方 1979年	編集/日本医学教育学会教育技法委員会
3. 教授—学習方法 1982年	発行/篠原出版 1993年
4. 評価と試験 1982年	9) 臨床教育マニュアル
5. シミュレーションの応用 1984年	監修/日本医学教育学会
4) 医学教育白書(医学教育別冊)	編集/日本医学教育学会教育技法委員会
編集/日本医学教育学会	発行/篠原出版 1994年
発行/篠原出版	